

令和8年度 第1回 交野市地域公共交通会議 議 事 録

[日時] 令和8年6月3日(水) 午後3時25分～午後4時59分

[場所] 交野市 青年の家 学びの館 1・2号室

1. おりひめバスの運行について
2. 交野市地域公共交通計画について
3. そ の 他
4. 閉 会

交野市地域公共交通会議 名簿

No	区分	氏名	所属	備考
1	学識経験者	熊谷 樹一郎	摂南大学理工学部都市環境工学科教授	会長
2		井上 学	龍谷大学文学部歴史学科日本史学専攻 教授	副会長
3	地方運輸局長が 指名する者	中野 幸太	大阪運輸支局首席運輸企画専門官（輸送）	欠席
4		田中 郁代	大阪運輸支局首席運輸企画専門官（総務企画）	
5	交通事業者	山本 英幸	京阪バス株式会社経営戦略室 代表部長	
6		谷川 嘉規	日本タクシー株式会社 寝屋川総合営業所長	
7		白石 和範	西日本旅客鉄道株式会社 近畿統括本部 阪奈支社 地域共生室長	
8		山添 哲司	京阪電気鉄道株式会社 経営企画部交通政策担当 課長	
9	労働組合	朝田 雅也	京阪バス労働組合副書記長	欠席
10		小川 敬二	日本タクシー労働組合執行委員長	
11	道路管理者	加藤 温	大阪府枚方土木事務所参事兼地域支援・企画課長	
12		土井 章央	交野市都市まちづくり部土木管理課長	
13	交通管理者	常元 幸司	交野警察署交通課長	
14	市民	山田 龍也	青山区長	
15		玉井 八恵子	公募委員	
16		堀内 治	公募委員	
17	市長が 指名する者	白井 佑季	大阪府都市整備部交通戦略室交通計画課課長補佐	
18		中野 貴雄	交野市危機管理室次長	
19		松浦 新太郎	交野市企画財政部次長	
20		畠山 悦子	交野市健康福祉部次長	

※傍聴者：3名 報道関係者：0名

【議事内容】

○開会

(事務局) 新たに就任した委員への委嘱状は、机上に配布している。新任委員である山田委員、白井委員、常元委員、加藤委員、畠山委員を紹介する。なお、新任委員のうち、中野委員は、欠席である。

また朝田委員は欠席である。20名中18名、過半数以上の出席となっており、交野市地域公共交通会議設置条例の規定により会議が成立していることを報告する。

○市長あいさつ

(市長) 本日はおりひめバス、地域公共交通計画の議題を予定している。おりひめバスは、本年7月より路線改定を予定している。4月改定でない理由は、国土交通省関係や、国の地域未来交付金交付決定後に契約する必要があるためである。令和8年度は、初期費用2.3億円のうち0.94億円は地域未来交付金を活用する。補正予算は、6月議会へ予算案提案予定である。ダイヤ改正では、最終便繰り下げ、東部、中部ルートの統合等の改訂は実施するところであるが、一方で、京阪バスの路線の一部見直しが行われており、星田駅から交野市駅を經由し、香里園へ直通する路線が廃止となった状況である。今後、令和9年度以降の路線検討は避けられないと考えている。

北部巡回ルートは、実証運行の3か年の実施期限を迎えるため、今後の運行に関する議論が必要であると考えている。

昨年度に関しては立地適正化計画の策定を終え、地域公共交通計画の策定に着手できる。これまで、多額の財源を別事業により生み出し、地域公共交通や子育て、給食の無償化などの事業に充ててきた。一方で財政負担の課題もある。市民ニーズとのバランスを見ながら、市民の皆様にとってより良い施策を今後も打ち出していきたい。本日は、様々な意見を承り、地域公共交通改善へ邁進したい。

(事務局) 以降の議事進行を熊谷会長にお願いする。

(会長) 本日の会議について傍聴の申し出があるため、公開・非公開の決定を諮る。本会議を公開とすることについて異議はあるか。

(委員全員) 異議なし。

(会長) 異議がないため公開とし、傍聴者の入室を許可する。

(傍聴者) 3名が入室。

(事務局) 傍聴要領の遵守をお願いします。

1. おりひめバスの運行について

(事務局) 資料1-1、1-2により説明

(会長) 質問、意見はあるか。

(委員) 利用者として、便数増加、最終便繰り下げはありがたい。私は、妙見東在住である。資料1-1の5ページに収支率は25.5%と示されているが、一般的には3～4割を目指すべきではないか。バス存続を切に願う立場から申し上げる。私の地区でおりひめバスのアンケートを実施したため報告したいが、資料を配布してよいか。

(会長) 地域で実施した調査とのことであり、配布を許可する。

- (委員) 資料「織り姫バス利用者アンケート結果(妙見東地区)」により説明
- (会長) 情報提供に感謝する。他に質問、意見はあるか。
運輸支局より発言を願う。
- (委員) 市担当者の頑張りにより、おりひめバスに高評価が得られていると感じた。遅延対策、情報発信に関しては、7月の再編により改善されると思われる。一方、遅延要因は、自家用車利用が多いことによる交通渋滞の発生ではないか。バス側へ改善を要望するだけでは改善は難しい。自家用車利用削減等の声掛けを地域で行うなども対策のひとつではないか。地域での協力を求める働きかけも必要である。
運賃値上げを許容する意見があった。中東情勢等から物価高騰で鉄道を含めすべての運送事業者のコストが上昇している。市、事業者のコスト削減だけでなく、利用者のコスト負担も一定程度必要と考える。
- (会長) 交通システムは、バスのみならず全体の話である。そうした姿勢を示すことが必要と感じた。
運行事業者より発言を願う。
- (委員) 4～5月の利用状況を報告する。4月は稼働日数25日、利用総数1,538名、49.5名/日、6.19名/便の利用があった。5月は稼働日数23日で、1,274名、55.39名/日、6.9名/便。67名/日の利用がある日もあった。一方で積み残しは一件もなく運行できている。大きなトラブルなく、一昨年9月1日より順調に利用が増加している。旅客は60～70歳以上の高齢者が圧倒的に多く、学生の利用は見られない。高齢者による買い物、通院等で、70～80名の方が繰り返しで利用されている一方、1回きりの利用での利用者増加もみられる。交野市の広報や口コミでの増加が効果を発揮しているものと思う。
- (会長) 承知した。利用者数が増えている一方、積み残しが発生しないのは地域の理解が広がっているためと考えられるのではないか。
- (事務局) 南部エリアの運行事業者の大新東(株)に発言を求めてよいか。
- (会長) 許可する。
- (大新東(株)) 我が社は南部エリアの運行を担当している。運転者の労働環境と車両設備の観点から発言する。利用者には、運行への見守り、お声がけによる心地よい労働環境形成に感謝する。バス運転手不足の一因であるカスタマーハラスメントが全くなかった。渋滞による遅延時にも、ねぎらいの言葉をいただく。市民に大切にされ、期待いただいていることが、バス運転手継続の力になっており、担い手確保の重要な一要素となっている。お叱りの言葉をいただくこともあるが、利用される市民から「自分たちのバスは自分たちで守り育てる」思いを感じ、我々も努力する。
車両設備について、先ほどのアンケート結果では小型バス導入という提案があった。交野市駅南星台循環ルートは高齢者利用が多い。朝のラッシュ時間帯である第2～4便は、立ち客が生じるほどの混雑となっている。歩行器、杖を持つ人も多く、高齢の旅客同士で譲り合っているが、車内事故を懸念している。今後も運行を継続するのであれば、なるべく座席数の多い車両で着席率を向上し、事故を減らす取組みが必要と考える。また、定期的な車いす利用者4名のほか、数名の車いす利用者がみられる。また、子育て世代のベビーカー、歩行

器、買い物カートでの利用が見られるので、ノンステップバスでの運行が必要と考える。座席数が多いこと、ノンステップバスであるという2点が、バス利用を選んでいただく重要な要件となっていると予想される。これが満たされないと、外出が抑制される可能性がある。大型バスは、狭隘な道路が運行ルートにあるため難しい。小型バスであれば、座席数の少なさや床の狭さという特徴がある。ラッシュ時の30名程度の乗車への対応も難しい。29席ほどの座席数の多いマイクロバスは、乗降に3ステップを要し、車いすや歩行器の方等には利用できず、高齢者にも乗降に難があるとなると、外出を控えることにつながる。現在、この地域の特性には、現状の中型バスでの運行が最適と考える。今後もこのバスを発展させるには、そうした地域特性を考慮いただき、これを軸に考えていただきたいというのが現場目線での意見である。

(会 長) 現状にかかる情報提供をいただいた。他に質問、意見はあるか。

(委 員) おりひめバスを見ると、手を振りたくなる。元気がでるカラーでうれしくなる。南星台の友人の意見として、バス後方は段差があり、高齢者は乗り降りが大変である。運転手から「若い人は後ろから詰めて」というアナウンスをいただければよいとのことであった。

(会 長) 利用者視点を含め、考えながらやっていく必要がある。乗客同士で言い合えるような機運も高まるとよい。副会長より発言願う。

(副 会 長) しっかりとしたデータに基づき議論でき、情報の共有がされているのは、よいことである。特に1便あたりの利用者数から、今後乗れない人が発生するという心配があることが分かったのは重要な点だ。今回の利用者アンケート回答者数からわかるように、バスがなくて困っているのは人口の1割程度である。9割が困っていないけれども無関心であってよいでしょうか。渋滞は、自家用車を使う人が協力することで改善される可能性がある。自家用車を使う時間帯について皆で配慮しあえるとよい。地域公共交通を他人事ではなく、自分事として考えられるような地域になることを期待する。公共交通を使わない人が、公共交通がないと困る人がいることを想像できれば、無断駐車削減などにつながるだろう。地域住民で声がけしあって、地域のなかで走行環境が改善できればよい。

今回のアンケートは、地域公共交通を自分事として考えていただき、とりまとめていただいている。バス利用の声を地域住民同士で進めていただければ、よい傾向になる。他の地域の事例では、自分事として話題にし、利用の声をしあっている地域で利用が増加している。地域の方同士で声かけしあえると、今後変わっていく。今年度は地域住民の声を期待している。

(会 長) 現在は、利用できる環境にある。利用していない方への啓発チャンスという示唆をいただいた。

(委 員) 利用者数を増加したいという一心である。新たに星田園地口停留所を新設いただく。ほしだ園地には大阪府内で有名な星のブランコがある。妙見東を裏ルートとしてほしだ園地へ行かれる方が非常に増えている。外国人の運転する車で妙見東5丁目の狭い路地に迷い込む事例もあった。Google マップでは、妙見東5丁目を経由する経路が案内されていたところ、市から府への働きかけ、府から Google への要請で案内経路が変更された。ほしだ園地を活用することにより、バス利用増加が期待

されるため、インバウンド向けも含めPRするとよいのではないか。

(会 長) バス停の新たな役割を提起いただいた。

(委 員) 住民への声かけは重要である。外出支援制度は、ゆうゆうセンターへ行かずとも、郵送でも対応できるなど、市で工夫いただいていることがとてもよい。この施策は、支持をいただいている。外出支援制度でバスチケットがもらえることの周知をしており、バス車内にいた他の乗客も外出支援制度の周知を行っていると感じた。今後も住民への声かけを頑張る。

(会 長) 皆で頑張っていければと思う。他に質問、意見はあるか。無いようなので、次の事項に移る。

2. 地域公共交通計画について

(事 務 局) 資料2により説明

(会 長) 地域公共交通計画は努力義務となっている。改めて、この計画について運輸支局より発言を願う。

(委 員) 地域公共交通の活性化及び再生に関する法律と道路運送法を管轄している立場から補足する。地域公共交通計画とは、端的には、地域にとって望ましい地域旅客運送サービスの姿を明らかにする市のマスタープランの役割を果たすものである。交通は、地域要望、議員からの意見、首長公約、交通事業者の状況より個別に場当たりの対応をしていると、非効率で無駄な投資、真に必要な地域の見落としなどの不都合を生じることがある。地域交通の現状の分析、問題点抽出、計画の理念、課題、施策等の整理を行う。取り組みの優先順位は、スケジュール、評価等を明文化した計画が求められる。関係者の計画についての協議で、アクションプランにつながるほか、担当者の人事異動の際にも後任への引継ぎ書類として施策の継続性を保つ役割がある。全国的な人口減少や高齢化、担い手不足等のなかで地域公共交通の維持、今後残すべきものについての取捨選択に向け、立地適正化計画などまちづくりと連動させて考えるものである。本計画策定で、すぐに新たな交通が運行されるとか、改善されるという誤解がある場合があるが、住民を含め関係者みなで協力、連携しなければ絵にかいた餅になる点を注意いただきたい。

配布資料2(参考資料)にわかりやすく記載があることから、確認いただきたい。

(会 長) マスタープランという表現が分かりやすい。全体像の提示や継続性の担保という役割がある。利用実態や地域ニーズ、地域公共交通の今後について意見・お考えが出てくるとよい。

まずは、交通事業者より発言を願う。

(委 員) 鉄道事業者の立場で議論に参加する。鉄道駅は、拠点として地域のまちづくりで役割を果たしている自覚をしている。一方、沿線人口減少トレンドのなか、労働力人口確保の厳しさも踏まえ、持続可能な適正なサービスを維持したい。ご理解賜りつつ、議論に参加していきたい。

(会 長) 沿線人口減少は切実な問題である。利用者の視点も踏まえながら、運行内容をどうしていくかも重要である。

(委 員) 京阪電車、JR、おりひめバス、京阪バスは、運命共同体である。バスから鉄道への乗継ぎを考える際、乗り継ぎのしやすさや乗りやすさを提供するフリークエスト

サービスの維持が重要と考える。利用減少、担い手不足のなか、効率化に向け、コスト削減のためにワンマン運転、無人駅等を進めている。今後は、自動運転等に取り組む必要がある。

公共交通の利用促進では、沿線の利用向上、沿線再耕として、枚方市、淀屋橋、三条等での再開発で、利用を増加させたい。我々でも取り組んでいきたい。

(会 長) 都市計画の立場から申し上げますと、沿線再耕が興味深い取り組みである。枚方市駅周辺は、最近表彰も受けている。

(委 員) 旅客より、タクシーを呼ぶ電話がつかないという声が届いている。市からの説明のとおり、タクシーの台数は減っておらず、稼働台数は増加しているなか、うまく利用いただかないと、乗車いただけない。弊社では自社無線の利用が8割で、流しはなく、残り2割が配車アプリによる利用である。Go、DiDi、Uberの導入でタクシーを利用しやすい環境になりつつある。高齢者にはアプリは難しいと言う方もあるが、86歳の利用者でも実際に配車アプリを使用している。周囲の人が使い方を教えていただければ、24時間予約できるなど、利用しやすくなるという声もある。配車アプリの利用を推進したい。電話予約も受け付けているため、予約が必要な際は配車センターへ連絡を願う。

(会 長) アプリは、高齢者向けの周知に課題がある。個人、家族、グループで啓発するなどの連携の重要度が増すと思われる。

(委 員) バス路線から撤退した立場であり、意見しづらい。残された路線は、可能な限り維持できるよう頑張りたい。一方、配車アプリ等でタクシーの利便性が向上しており、バス事業者としては厳しい面もある。

(会 長) バスを取り巻く環境は厳しい。他事業者も一緒になって考える必要があるテーマである。

他に質問、意見はあるか。

(委 員) タクシーの話題に違和感がある。適正車両数を上回る車両数という表現があるが、運転手不足で稼働していない車両もある。市内のあるタクシー会社では、運転手の平均年齢が70歳以上で高齢化が進んでおり、夜間や休日の稼働数が減っている。この点の考慮がもう少し必要である。高齢者はタクシーをやむを得ず利用している。交野市から阪大病院まで利用している事例もあり、片道1万円を超える。門真市駅でモノレールへ乗り換えているとも聞くが、片道5,000円かかるため年金生活者には厳しい状況である。ラストワンマイルのみならず、高齢者にとってはファーストワンマイルも楽ではない。バスが運行されていない時間の移動もある。シェアサイクルや、その他にも1人で免許なしで利用できる乗り物がある。こうしたものを組み合わせて地域公共交通計画として取りまとめていただきたい。電動自転車は、高齢者でも利用しやすい。国から自治体向けに、シニアカーを貸出すサービスがある。これを活用し、市から自治体にシニアカーを貸与いただけないか。こうした視点を含め、計画を策定していただきたい。

(会 長) シェアサイクルは国内で導入が進んでいる。行政による主導が必要な面もある。一方、交野市では、人口が社会増となっている。若い世代の増加も見受けられる。市担当より発言願う。

(委 員) 人口の観点では、本市は健闘している。令和7年の国勢調査では、全国では309万人の減少であったが、本市では5年間で540人の増加となった。人口が増加した自治体は、全国では1割弱、大阪府下は7市町で、本市が府内6番目の増加数である。人口増加要因として、住民基本台帳の直近3年間をみると、出生者は500人弱、死亡者850人程度で、自然減350人となっている。一方、転入超過となっていることから令和2年の国勢調査よりも増加となった。住宅購入層の0～19歳、30代の転入が顕著である。大阪府内市町村からの転入、特に大阪市、枚方市からの転入が多く見られる。要因として、星田北ほか市内での住宅供給が進んでいるほか、子育て教育施策を推進している点が挙げられる。市としては、若い世代の流入による、まちの活力確保が重要であると考えて、給食無料化や小学校3年生以下における30人以下学級実施などの施策を実施している。限られた予算のなか、小中学校の施設改修、妊婦検診の助成、公園整備や見守り支援員の派遣、子育て支援施設の整備など各種施策に取り組んでいる。まちの魅力を高め、活力増進で地域公共交通、高齢者福祉等にもつなげていきたい。

(会 長) 情報提供に感謝する。若い世代は、運転しない人もおり、地域公共交通の充実が魅力につながる。副会長より発言を願う。

(副 会 長) 計画策定にあたり、他地域と交野市の違いや、特徴を捉えて計画を策定できるとよい。若い世代の転入者へ働きかけることで、地域公共交通の利用増加につながる。見守り相談員がバスの案内をすることも考えられる。高齢化が進む団地では、移動サポートの検討も出てくる。自治体を点でなく面として考え、地域の特徴を踏まえて考えられるとよい。交通事業者には、担い手確保を自治体連携で取り組めるとよい。

(会 長) 地域公共交通計画に地域性があるとよい。交野市ならではの戦略になればよい。他に質問、意見はあるか。無いようなので、次の事項に移る。

3. その他

○京阪電気鉄道株式会社

(委 員) 資料3により説明

(会 長) 各社による様々な工夫がされているようである。他に事務局から何かあるか。

(事 務 局) 特になし。

4. 閉会

(会 長) 他に意見がないため、本日の議事は以上をもって終了とする。

本日はご参集いただき、慎重な審議および貴重なご意見、さらには力強い決意表明を賜り、心より感謝申し上げます。

今後とも引き続きご協力をお願いし、これにて閉会とする。

以上